

元々性格が外向的な私が学校で本当に静かでした。昼休みの時いつも一人でした。その一年では本当に寂しくて辛かったです。その時から高校では絶対このような生活を繰り返したくないと思い、日本語を一生懸命に勉強すると決めました。まずは、家ではひらがなやカタカナを勉強しました。そして、学校の担任の先生から市内の小学校にある日本語教室を紹介してもらいました。私は週1回日本語教室に通いました。自分の分からない文法や難しい言葉など1週間分を整理して、日本語教室に行くときは、たくさんの質問をしていました。日本語教室の先生がとてもやさしくて、中国語もとても上手で大変お世話になりました。今も感謝の気持ちでいっぱいです。日本語教室だけではなく、私は家でも頑張って家族と日本語を使っていました。

高校受験の時に、私は栃木県の県立高校の「海外帰国者・外国人等の受検に関する特別措置」という検査で受験しました。入試内容は3教科と面接でした。そして、国語の入試の代わりに小論文がありました。数学と英語が得意だったので、心配しなかったのですが、小論文はその時日本に来てたった1年の私にとって本当に難しかったです。そこで、私は、まず、中国語で書いて、その後、日本語教室の先生といっしょに日本語に直しました。そして、そ

の中で分からない文法を勉強して、暗記しました。小論文は、いろんなテーマについて、何度も書いて、たくさん練習しました。面接も先生と一緒に何回も何回も練習しました。学校と日本語教室のお陰で無事に高校への進学ができました。

高校に入学できた後、私は自分から声をかけて友達を作ろうとしました。自分の日本語が間違っているとわかってても頑張ってみないと話しました。自分の日本語をたくさん話すことがとても大切だと思います。なぜなら、友達と話すことによって、正しい日本語を聞いて、覚えられるし、自分の間違っている日本語があったら友達が直してくれるからです。私は友達とのコミュニケーションの間でたくさん日本語の勉強になりました。高校では、友達がたくさんできましたので、高校生活は本当に楽しかったです。

今日は私と同じ立場にいる外国人生徒に言いたいことがあります。外国に来て大変なことはもちろんたくさんあります。でも、そこで諦めないで、大変なことを乗り越えれば楽しいことがいっぱいあります。たくさんの困難を克服することによって、自分が成長します。今自分が経験したことはきっと自分の財産になります。

●HANDSnext vol.23(2018年2月7日)



外国人児童生徒教育支援のための 学生ボランティア派遣事業



「多言語による高校進学ガイダンス」資料の一部(スペイン語・ポルトガル語・フィリピン語版)

